

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103136
法人名	医療法人 創実会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	松山市 六軒家町 3 - 19
自己評価作成日	平成23年10月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の健康を日々管理して、体調が悪くなった時、速やかに母体病院及び、利用者の主治医に受診できるように連携がとれている。又、その時は家族に連絡し、状態を報告している。利用者が重度化したり、ターミナルケアが必要になっても退所されることなく、生活できるよう体制がとれている。利用者の生活の様子を、家族の方に毎月文書で送り、来所時やケアプラン説明時などこまめに報告して安心いただいている。運営推進会議を通して、消防署や、地域と防災訓練を合同でしたり、ホームとの関係が深まってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

校区内の小学生の「ふれあいクラブ」の児童が、継続して月2回、来てくれており、利用者と一緒に歌を歌ったり、楽器の演奏をしたり、折り紙やゲームをして交流されている。「ふれあいクラブ」の児童の中には利用者のお孫さんもいて、利用者はさらに楽しみになっている。中学生の福祉の授業での訪問時には、利用者で交流されたり、車椅子を押す体験等をされた。母体病院の受診時、知り合いの方にお会いした際には、職員からも「ホームにも立ち寄って下さいね」と声をかけておられる。地域のいきいきサロンに出かけた際には、利用者は地域の方達とゲーム等をして楽しまれた。
以前、住んでいたところに「帰りたい」と言われる利用者には、ご家族と相談して、職員同行で帰っていただいたこともある。職場の同僚だった方が会いに来てくれたり、県外に住むご家族が、居室に泊まって帰られることもある。入居前からファミリーサポートセンターを利用されている利用者がおられ、調査訪問時には、ご本人が依頼した買い物をお届けに来られていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはなの家

(ユニット名) 3F 桃

記入者(管理者)
氏名 渡部静佳

評価完了日 平成 23 年 10 月 11 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 『温もりは我が家のように』という、事業所理念と、『利用者にあわせて』という、ユニット理念を毎日申し送り時に、復唱して仕事にのぞんでいる。	
			(外部評価) 事業所理念とともに、「地域の中で利用者が過ごしていくこと」という事業所の思いを踏まえて、各ユニットごとに理念を作成され、地域の中で利用者を支えていくことを目指して取り組んでおられる。理念は、居間に掲示して、毎朝の申し送りの時に復唱し、共有されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 定期的に味酒小の生徒の来訪があったり、運営推進会議で、地域の行事や、活動をおしえていただき、町内と、はなの家合同の防災訓練や、町内の病院の夏祭り、いきいきサロンなどに参加をしたり、又、はな祭りには、たくさんの地域の方々に、来ていただいた。	
			(外部評価) 校区内の小学生の「ふれあいクラブ」の児童が、継続して月2回、来てくれており、利用者と一緒に歌を歌ったり、楽器の演奏をしたり、折り紙やゲームをして交流されている。「ふれあいクラブ」の児童の中には利用者のお孫さんもいて、利用者はさらに楽しみになっている。中学生の福祉の授業での訪問時には、利用者で交流されたり、車椅子を押す体験等がされた。母体病院の受診時、知り合いの方にお会いした際には、職員からも「ホームにも立ち寄ってくださいね」と声をかけておられる。地域のいきいきサロンに出かけた際には、利用者は地域の方達とゲーム等をして楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ボランティアで地域の方に来ていただいた時や、地域の小学校の生徒が訪れ認知症の方と接する時、職員もいっしょにかかわり、その時々説明をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議の中で、利用者の日頃の暮らしぶりや、行事などを報告したり、情報交換、意見交換の場として、サービス向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 会議は、法人内の地域密着型特定施設入居者生活介護事業所(介護付き有料老人ホーム)と合同で行っておられ、会議の案内や議事録は、地域のメンバーのお宅を訪ねて手渡しされている。会議時、事業所からは、行事や活動を報告してメンバーの方達と意見交換したり、防災訓練を実施された。さらに、町内会長等、地域の方からは、町内の夏祭りや自主防災訓練等、地域行事の情報を教えてもらっている。管理者は、「会議を重ねることで地域との関わりが出来てきた」と感じておられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市介護課、市社協、地域包括の職員と、運営推進会議や研修を通じて、アドバイスを頂いたり、相談にのって頂いたりしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方には、研修の情報を教えてもらったり、防災訓練へのアドバイスをいただいた。インフルエンザの流行の時期には、注意することを教えていただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束については、外部の研修や、職員の勉強会で正しく理解しており、拘束はしていない。どうしても必要な場合は家族に同意書をいただいているが、必要がなくなれば、やめている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、利用者は職員といっしょに散歩や買い物に出かけていく様子がみられた。ユニット入り口のドアの開閉時には、音が鳴り職員が気付くようになっている。「帰りたい」と言われる利用者には、職員がゆっくりお話を聞く等して対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については、外部の研修や、職員の勉強会で正しく理解しており、自らの行為や、他の職員の行為が、行き過ぎて、虐待になっていないか、意識しながら防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護、成年後見制度については、外部の研修や、職員の勉強会で学ぶ機会があり、理解している。この制度を利用している方がいるので、協力している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、入居前の契約の時、詳しく説明し、見学いただいて、生活の様子を実際にみて、十分理解・納得してから契約をしていただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に2回家族会を行い、意見・要望を言ってもらえる機会を作っている。又、面会時や、ケアプラン説明時には気軽に言っただけのように、こちらから声をかけている。 (外部評価) ご家族へ毎月送付する書類とともに、利用者個々の担当職員が、利用者の日頃の様子や体調、行事に参加した際の様子等を書いた手紙を同封されている。ご家族は、「事業所での様子がよく分かる」と、喜ばれているようだ。行事時の写真や運営推進会議の内容等を載せた「はな便り」は、年3回発行されており、ご家族の来訪時に、手渡ししてエピソードを伝えておられる。3月の食事会や10月のいも炊き時には、20名ほどのご家族が参加されて、ご家族同士や職員とも親睦を深めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>代表者と職員が、直接話し合える場は少ない。管理者とは、日頃の業務の間や、ミーティング時に話し合える場があり、意見や提案を反映させていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月に1回、全職員でミーティングを行っておられる。ミーティングでは外部研修の報告や日頃のケア・業務について意見を出し合うようにすすめておられるが、職員からの意見や提案はあまり出ることがないようだ。</p>	<p>管理者は、各ユニットのリーダーが中心になってミーティングを行う方が意見が出やすいのではないかと考えておられる。職員が活発に意見や提案を出せるような取り組みを工夫して、現場職員の意見や提案を運営に反映していかれてほしい。職員の意欲向上にむけた取り組みを工夫していかれてほしい。</p>
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>代表者と職員が、直接給与や労働時間などを話し合う機会は少ない。代表者は管理者より職員個々の状況を聞いて把握している。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>代表者と管理者は、職員の力量や、希望を聞いて研修に受講できるように配慮して費用の補助もしてくれている。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>城西・勝山地区グループホームの集まりに参加したり、はなの家のいもたき会に、来ていただいたりして交流を深めたり、相互研修に参加して、情報交換し、質の向上に努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前に面談し、見学に来てもらって、ホームの様子を見ていただき、不安や要望を聞き、安心できるよう説明している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に、家族に十分に説明して、困っていること、不安なこと、要望等があればそれに添えるように話し合っ、理解していただき信頼関係が持てるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の、話し合いの中で必要な支援があれば、他のサービス利用も柔軟に取り入れ対応している。訪問診療、訪問マッサージ、散髪、買い物、などを利用されている方が多い。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人のできる事を探し、洗濯物たたみや、食器拭き、食事作りの下準備、新聞取りなど色々とお手伝いをしていただいている。又、楽しみにしているテレビをいっしょにみたり、ピアノを弾いていたり共に暮らしている者同士、信頼できるよう努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時や、毎月本人の様子を伝えた手紙を送り、協力できるような関係づくりをしている。又、お誕生会に参加していっしょにお祝いをしたり、体調に変化があればお知らせしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人の面会や、電話や手紙のやりとりの支援、家族に協力していただいて、以前に住んでいた家に帰る等の支援ができています。 (外部評価) 入居前に法人内のデイサービスを利用されていた利用者の方は、時々、デイサービスに出かけて交流を続けておられる。以前、住んでいたところに「帰りたい」と言われる利用者には、ご家族と相談して、職員同行で帰ってみられたこともある。職場の同僚だった方が会いに来てくれたり、県外に住むご家族が、居室に泊まって帰られることもある。入居前からファミリーサポートセンターを利用されている利用者がおられ、調査訪問時には、ご本人が依頼した買い物を届けに来られていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関わり合いが、出来にくくなってきているので、職員が間に入り、関わられるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されてからも、はなまつりには招待して来ていただいている。その時は声を掛けて、相談があれば受けている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中での話や、表情で希望や思いを汲み取り把握している。家族と相談したりして、本人本位に検討している。	意思疎通の難しい利用者もおられ、今後さらに、職員の利用者へのかかわり方等を工夫して、利用者個々の思いや意向を探りながら、ご本人主体の取り組みにつなげていかれてほしい。
			(外部評価) 入居時に、ご本人ご家族から、これまでの生活の様子や暮らしの希望を聞き取っておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしぶりを入所時の記録や、入所後も本人や家族に聞いて、ホームでの日常生活に活かせるようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の様子、心身状態、ケアプランの内容が出来たかを個人観察記録の残し、職員間で申し送り、把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月に1回職員で、モニタリングして話し合い介護計画の原案を作成している。家族と、それを元に話し合い、意見や、希望を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、ご本人、ご家族の希望を反映して利用者個々の担当職員が立て、ケアマネジャーや管理者が確認をされている。毎月ミーティング時にモニタリングや評価を行い、「介護支援経過」に記入されている。介護計画は3ヶ月ごと、また状態変化時に見直しを行っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々個人記録に、様子や介護計画の内容が実践出来たかどうかを記入している。それを元に、情報を共有して見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族の宿泊の体制、病院受診、往診、散髪など、本人や家族の状況に応じて対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 移動のパン屋、直産市、理容所など利用したり、地域のいきいきサロンに参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) はなの家母体病院医師が、週に1回往診に来て健康管理をしているが、本人のかかりつけ病院受診の際には、家族と共に付き添っていったり、家族だけで行かれた時は受診結果を聞き、関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 母体病院の医師が主治医で、週1回往診に来るようになっていいる。歯科や眼科、皮膚科も必要時に往診が受けられるようになっている。調査訪問時、買い物に出かけた際に、ケガされた利用者がみられたが、母体病院で検査や処置を受け、その後、主治医が利用者のその後の様子を診に来られていた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 各ユニットの看護職員は介護職員と協働しており、母体病院の看護師とは随時情報の交換をして、連携できている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 定期的に利用者のお見舞いに行き、必要な物や、洗濯物を持って行ったりしている。その時は、医師や看護師との情報交換をしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時にも説明しているが、利用者が重度化したり、終末期ケアになった場合に、家族や病院医師と相談して、なるべく本人、家族の意向に添えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態変化等があれば、主治医がご家族に説明するようになっていいる。利用者やご家族は、「最期まで事業所で過ごしたい」と希望している方もあり、事業所では希望に沿って支援していきたいと考えておられる。これまでに、ご家族が居室に泊まり、職員とともに看取られたような事例がある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救急時の対応の研修に、職員は順番に参加して、急変や事故発生時対応できるようにしている。又、職場のミーティングで、訓練をしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災の避難訓練は、定期的に行っている。町内の災害避難訓練に参加したり、運営推進会議で、消防署、地域の方と何度も話し合って協力体制が出来ている。又、講演に来ていただいた。	
			(外部評価) 4階からの出火を想定して避難訓練を行った際には、利用者にも協力を得て、非常階段からシーツを使用して降る訓練をされた。職員は、階段の踊り場を回ることが難しく感じられたようだ。町内の防災訓練は、法人の駐車場で行われ、「地震体験車」「煙ハウス」等、地域の方達とともに体験された。又、通報訓練を突発的に行い、いざの時に備えておられたり、災害時のユニットごとの役割も決めて訓練されている。運営推進会議時には「災害時の携行品について」等、話し合われている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室でのオムツ交換、着替えなど人に見られたくない時は必ずドアを閉めたり、人に聞かれたく無いような事は人に聞こえないよう話して、人格を傷つけないようにしている。又一人ひとりにあわせた声かけをしている。	
			(外部評価) 法人代表者は、日頃から職員に「利用者は、大先輩だから、馴れ馴れしくし過ぎないように」と話されている。トイレ介助時、利用者が排泄中はタオルを掛け、プライバシーや羞恥心に配慮し、対応されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 更衣、食事、入浴、起床、就寝等生活の中で、決めていただく場面があり、無理やりこちらの意見を押し付ける事無く、希望をきいている。失語症や、認知症等で思いの表出が出来にくい方には、じっくり時間をかけて、思いを読み取るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の体調や、ペース、生活のリズムに合わせた生活がおくれるようにしている。突然の外出希望に応じられない時は、後日実現できるようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類は、家族に好みの物を持って来て頂き行事や、外出の時には、いつもよりおしゃれしている。日々、清潔な物を着て、髪は移動理容車やボランティア散髪、散髪にでかけたりして、身だしなみに気をつけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食べ物やお誕生日、母の日、敬老の日等のお祝い事や、家族会、祭り、クリスマスなど年中行事にはかかさず、それに合った食事を用意し、楽しんでいただいている。日々、食器拭きや、かんたんな食事準備の手伝いをお願いしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の希望を聞きながら献立を立て、食事を作っておられ、利用者と一緒に同じ食事を食べておられる。利用者が食べやすい大きさに切つてある方もみられた。食後、職員は、「お茶も飲んでおいてね」と、利用者におすすめしておられた。利用者は、豆の筋とりをしたり、食器を拭いたりされている。利用者の誕生日には、ご家族もお呼びして、お寿司等、ご本人のお好きなメニューとケーキでお祝いされている。利用者の希望でうどんや回転寿司を食べに出かけることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事と水分の摂取量をチェックし必要量を確保している。献立は栄養のバランスを配慮し、一人ひとりに合わせた食べる量、形態(刻み、ミキサー、とろみ)にしており誤嚥防止等に配慮している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを行っている。夜間に義歯は洗浄剤で清潔にしている。一人ひとり、うがい、歯磨き、義歯の洗浄ができる範囲でしていただき後介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターンを知り、排泄の失敗がないように、トイレに誘導している。オムツ使用の方は、時間をみて交換しているものの排泄があったと思われる時にも交換している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導し、トイレで排泄できるよう取り組まれている。食後、トイレに誘導される際には、職員は利用者のそばで小さな声で声かけされていた。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄を促す乳製品、ヨーグルトは手作りしてよく食べている。バランスのよいメニューで予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>あらかじめ入浴の予定はあるものの、その日の状態と、事前に入るか聞いて自己決定していただいている。冬にくらべて夏場は汗を多くかくので回数を多くしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎日入浴の準備をして、利用者個々に、週3回は入浴できるように支援されている。お風呂がお好きな方は、毎日入れるよう支援されている。中には、入浴剤を入れることを好まれる方もいる。ご家族の用意して下さったご本人がお気に入りのシャンプーを使っている方もいる。同姓介助を希望する利用者には、希望に沿うように配慮されている。足浴は、足裏の刺激と保温のために、足桶にビー玉を入れて行っておられる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>好きな時に居室に帰り、ベッドで休まれたり、テレビをみたり、ラジオを聴いておられる。又気持ちよく眠れるように温度や寝具の調整をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) お薬の処方時、用法、用量、目的、副作用の書いた処方箋がでて理解している。薬の準備、服薬時には間違いのないように何度も確認して飲んで頂いている。又本人の状態に合わせてトロミや粉碎にしている。</p>	
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 生活暦を入所時や、家族が来所された時、又は本人に聞いたりして嗜好品(食後のコーヒー等)、家事やレクリエーションを通して、楽しみごとや気分転換に役立てている。</p>	
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常的にその日の希望にそってはなかなか外出できていないが、後日希望をきいて出かけている。時には皆で、ドライブや外食など、外出をしている。又、家族にも協力して頂き、家に帰ったり、思い出の場所に行ったりしている。</p> <p>(外部評価) 日常的に法人の敷地内を散歩されたり、近くの量販店に買い物に出かけたりされている。事業所の畑の野菜の成長をみながら散歩されたり、利用者数名で、道の駅にドライブに出かけたり、「菊花展」を見に出かけておられる。松山劇場へ芝居を楽しみに行かれ、後日、劇場から記念写真を送っていただいたことを、利用者と職員は喜んでおられた。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>(自己評価) お小遣いを預かって管理しており、本人や家族に聞いてから、日用品やおやつなど購入している。お金を管理できる方には、していただいており買い物の時に使用している。</p>	
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の希望時、電話をかけた、かかってきた時も本人がお話されている。難聴や失語症には、職員が変わって伝えられている。手紙のやりとりを楽しみにしている方がいるので、出来るよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングに季節の花や、飾りつけをしている。日頃窓の開閉をこまめにして、明るく風通しよくしており、夏は冷房、冬は床暖房をして居心地よくしている。キッチンより食事時には、おいしい匂いがただよっている。 (外部評価) 日当たりが良い南向きの居間では、ソファでテレビを見たり、新聞を読んでいる利用者の様子がうかがえた。又、階段の手すりを使って上がり降りする利用者や居間で足の運動のため自転車漕ぎを行っている利用者もおられる。居間には、利用者の習字の作品や行事時の写真を飾っておられた。利用者が口ずさんでいた「うめぼしの歌」をきっかけに、歌詞とともに、職員が紙を切って作った梅の木と、梅干しを貼っておられた。ベランダにはポインセチアを飾っておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングに ソファ、テレビ、テーブルを置き、思い思いに過ごしていただいている。又、独りになりたい時は部屋で、思い思いに過ごしていただいている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に使い慣れた物を持ってきていただいている。入居後も本人が希望される物や、本人の状態に合わせて家族と相談して居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) ベッドの枕元に、ティッシュペーパー等の日用品を置いて、手が届きやすいようにしている利用者や、お孫さんが持って来てくれたぬいぐるみを大事にされている方もいる。窓際に観葉植物を置いて育てておられたり、帽子がお好きな利用者は壁に数種類の帽子をかけておられた。「ふれあいクラブ」の小学生から貰ったメッセージ入の似顔絵や首飾りを大切に飾っている方もいる。趣味のハーモニカや電子ピアノと歌の本があり、調査訪問時には、ピアノを弾いて聞かせてくださった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に暮らせるようにバリアフリーになっており、必要な所に手すりを取り付け、入居者の中にはポータブルトイレを置いたりして、なるべく自立した生活が送れるようにしている。又危険と思える物は置かないようにしている。	